

# 令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

## 「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

**1 調査日** 令和6年4月16日(火)

**2 調査対象** 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

### **3 調査内容**

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

**品川区立中延小学校**

令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組  
【国語】

## (1) 各教科の定着状況についての概要

2, 4, 5, 6年生は目標値と同程度の結果となったが、3年生のみ基礎部分でポイントが大幅に下回った。全体として、「書くこと」のポイントがアップしているが、漢字の書き取りに共通した課題がある。また、3年生以上は、文法や漢字の使い方にも課題がある。「読むこと」に関しても、正しく読むこと、文や段落の関係を読み取ることに課題がみられた。

## (2) 学年ごとの分析

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う

2年	具体的な課題		原因として考えられること
	情報と情報の関係について理解し、相手に伝わるように話すこと（書くこと）に課題がある。		何を聞かれているのか分からなかったり、主語に対する文の書き終わり方が分からなかったりしている。
	課題解決のための方策	聞かれていることに正しく答えたり、文の終わりまで気を付けて書いたりする時間を設ける。	
3年	具体的な課題		原因として考えられること
	書いてあることを理解しながら読むことや指定されたことについて書くことに課題がある。無回答も多い。		読むことにおいて、文章の前後関係から気持ちを想像することや内容の大体を理解することが難しい。また、課題を理解して内容をまとめて書くことが難しい。
	課題解決のための方策	基礎学力をあげるために、新出漢字を使って文づくりをしたり、授業の音読に取り組んだりする。音読では、途切れることなく読むことを目指し、漢字の読み方の確認をしたり音読後に内容を説明したりする活動を取り入れていく。読書習慣をつけていく。	
4年	具体的な課題		原因として考えられること
	説明的文章を正しく読むこと、自分の考えを指定された条件に沿って文章を書くことに課題がある。		叙述を基に段落の内容を捉えたり、中心となる語や文を見付けて要約したりすることや、段落の役割の理解や自分の考えを表現することが難しい。
	課題解決のための方策	説明的文章では、段落ごとに内容を確認し前後のつながりを明確にして読む。音読を通して基礎学力を上げていく。読書習慣をつけていく。	
5年	具体的な課題		原因として考えられること
	漢字の書き取りや条件に沿った行数で文章を書くことに課題がある。		段落の役割の理解や相手に合わせて表現を変えることが難しい。
	課題解決のための方策	新出漢字を使った文づくりや反復練習をする。相手意識をもって自分の考えをまとめた文章を書く時間を設ける。	
6年	具体的な課題		原因として考えられること
	描写や前後の関係から登場人物の心情を捉えることに課題がある。		物語的文章では、自身の経験で読んでしまったり、描写を正しく捉えることが難しかったりしている。
	課題解決のための方策	文章を正しく読んだり、前後関係からつながりを見付けたり、描写を的確に捉える学習を進める。	

## (3) 次年度の数値目標

低学力層の割合が50%以内になることを目標にする。

# 品川区立中延小学校

## 令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【社会】

### (1) 各教科の定着状況についての概要

4年生は、前年度の目標値 68%を目指したが、今年度は目標値を7下回っている。観点別の定着では基礎が4%、活用が9.7%目標値を下回る結果となった。5年生は、今年度は目標値を1.4%下回っている。観点別の定着では、基礎が1.8%、活用が0.6%目標値を下回る結果となった。6年生は、目標値・平均正答率全国平均と比較し、全体的に上回っており、区内平均より2.3%高い数値になった。

### (2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題	原因として考えられること
	目標値・平均正答率・全国平均と比較し、全体的に下回っており、特に地図記号などの知識や資料からの読み取りに苦手意識がある。	社会科全体に苦手意識があり、基礎・基本の定着が身に付いていない可能性がある。
	課題解決のための方策	<p>まずは、社会科が楽しいと思える教材を準備することが大切である。</p> <p>【実物教材や地域人材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科が楽しいと思えるために、児童に自分の生活との関係性をもたせるためにも、見学やゲストティーチャーの活用、実物に触れる体験をどの単元にも効果的に位置付ける。また、授業の3分間を使って地図記号クイズや23区クイズなどをして知識の定着を図る。</li> </ul> <p>【資料読み取りの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期までに再度資料の確実な読み取りの方法を獲得させ、どの単元でも児童が切実性をもって学習に取り組める資料の提示方法を工夫して行うようにする。また、繰り返し発問を行い、考えを深める場面を必ず設けるようにする。</li> </ul>
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	目標値・平均正答率・全国平均と比較し、全体的に下回っており、「都道府県の様子」などの知識面や「資料読み取り」に課題がある。	「都道府県の様子」では、都道府県の「位置と名称」を地図から読み取ることができていない。また、どの領域でも「記述」する問題に課題がある。問題に手掛かりがあるのに対し、読み取れない傾向にある。
	課題解決のための方策	<p>【都道府県の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の5分間を利用して「地方・都道府県名・県庁所在地」など、年間を通した復習時間を設け、定着を図る。苦手な児童に配慮し、地方ごとに小テストを行うなど、スモールステップを踏みながら定着を図る。</li> </ul> <p>【資料読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、Power Point を使って児童が「なぜ、気になる」等、問いまでの資料の見せ方を工夫する。また、児童が次の資料を見たいと思う必然性を設定するとともに、資料の見方をていねいに指導する。</li> <li>・資料の見方が確実に定着するように、単元終了ごとに復習プリントをする。</li> </ul>
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの領域でも目標値を上回っているが、領域別に見ると、「世界の中の国土」と「日本の食料生産」に課題がある。	「世界の中の国土」では、世界の国の大陸の「位置と名称」を地球儀から読み取ることができていない。「資料読み取り」では、複数の抽象的資料から情報を正確に読み取り、グラフや表にまとめることに課題がある。
	課題解決のための方策	<p>【国土の位置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の5分間を利用して「川・湖・山脈」など、年間を通した復習時間を設け、定着を図る。苦手な児童に配慮し、地方ごとに小テストを行うなど、スモールステップを踏みながら定着を図る。</li> </ul> <p>【資料の読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から読み取ったことをグラフにまとめるという作業を学習活動の中に取り入れていく。</li> </ul>

### (3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値68%を目指す。4年生は、プラス10%向上、5年生は、現状維持または3%向上を目指す。

## 品川区立中延小学校

令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組  
【算数】

(1) 各教科の定着状況についての概要

全学年算数を見ると、目標値と比較して上回っているのは、5, 6年生で、今年度目標値を5ポイント以上上回るとした目標も達成した。目標値と同等なのは2, 3, 4年生であった。領域別に見ると「数と計算」についてはどの学年においても定着が見られる。

「データの活用」については、低学年は定着しているが学年が上がるにつれ定着度は下がっている。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

2年	<b>具体的な課題</b>		<b>原因として考えられること</b>
	「3つの数の計算」「たし算」「時計」 立式と問題の読み取りが難しい。		図を式に表すことに苦手意識がある。問題文の読み取りや理解ができていない。
	課題解決のための方策	図から立式したり、答えを導き出したりする経験を積む。多くの情報の中から必要な情報にラインを引き、問題に取り組む。	
3年	<b>具体的な課題</b>		<b>原因として考えられること</b>
	「図形・箱の形」 箱の面や辺の数の捉え方が弱い。		最終の図形問題の読み取りが難しかった。日常から箱の形を意識することが少ない。
	課題解決のための方策	文章題や情報が多い問題など、数多くの問題に取り組みさせることで定着を図る。箱を分解したり、作ったりして定着を図る。	
4年	<b>具体的な課題</b>		<b>原因として考えられること</b>
	「かけ算」筆算の理解に課題がある。 「棒グラフ」の読み取りが苦手である。		かけ算の筆算で十の位の意味の捉え方やグラフの目盛りの読みとり方が弱い。
	課題解決のための方策	モジュールなどの時間で計算の反復練習をする。課題解決の理由などをノートにまとめる時間を取り、共有する。	
5年	<b>具体的な課題</b>		<b>原因として考えられること</b>
	「データの活用」「面積」 目盛りの読み違い、量感覚が乏しい。		1目盛りが表す大きさを意識せず、全体で捉えている。量感に触れる機会が少ない。
	課題解決のための方策	1目盛りが表す大きさを意識させるとともに、他教科でも資料の読み取りなどを行う。面積では実物の大きさに触れさせるなど、量感を養う。	
6年	<b>具体的な課題</b>		<b>原因として考えられること</b>
	「データの活用」「小数の計算」 問題の読み違いや小数点の処理に課題がある。		設問の読み取りを間違え、数値のみで判断している。計算間違いが目立った。
	課題解決のための方策	アンダーラインを引き、設問を正確に読み取る。計算領域ではモジュールやアプリを活用し、繰り返し計算をする。	

(2) 次年度の数値目標

各学年、全体の目標値を5ポイント以上、上回る。文章題の問題を丁寧に読み、領域では、思考判断領域のポイントを5ポイント以上、上回る。

## 品川区立中延小学校

令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

### 【理科】

(1) 各教科の定着状況についての概要

4年生は、前年度の目標値を目指したが、今年度は目標値を8.2下回っており、観点別の定着では基礎6.8、活用11.4も目標値を下回る結果となった。5年生は前年度10%向上を目指していたが、全体の目標値8、基礎6.7、活用11.2下回った。6年生は前年度5%向上を目指していたが、全体の目標値2.1、基礎2.4、活用1.5も下回った。

(2) 学年ごとの分析

4年	具体的な課題	原因として考えられること
	特に、「植物の育ち方」「電気の通り道」に課題が見られる。また、記述式の長い解答に取り組む力が弱い。問題の読み取りも難しい。	読解力、文章力が低いために、問題の読み取りが難しい。また、4科目目ということもあり、集中力が続かない。理科の基礎知識が足りていない。
	<b>課題解決のための方策</b>	<b>【読解力、文章力】</b> ・国語科と合わせて、文章の読み取りと書く活動を繰り返し行う。 <b>【基礎学力の定着】</b> ・学習の振り返り、理科プリントを活用して、繰り返し学習を行うことで定着を図る。
5年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの項目にも課題がある。その中でも特に「空気と水の性質」の領域と全体的に知識面においても課題である。	対象物が変わると、関連づけて考えることができない。習ったことを他のものや自分の身近なことと結びつきられないと考えられる。
	<b>課題解決のための方策</b>	<b>【関連づけて考える】</b> ・学習後の振り返りを活用して、予想や結果を関連付けて考えさせる場面を設ける。事象を比較したり関連付けたりして考察できるようにする。 ・単元のまとめでは、学習したこと視覚的な資料を用いて、振り返る時間を設ける。また、習ったことを他のものに置き換えて、どのようなことが言えるのか、自分の生活と結び付けて考えられるようにする。 <b>【知識】</b> ・単元終了時に確認プリントを用いて、振り返りができるようにする。定着度が低いものを中心に、大事な点をもう一度押さえる時間を設ける。
6年	具体的な課題	原因として考えられること
	どの項目にも課題がある。特に、「植物のつくり」や「人のたんじょう」などの生命領域に課題がある。	抽象概念が増え、仮説検証をするための考えが不十分であると考えられる。また、実験器具の使い方や用語が押さえられていない現状がある。
	<b>課題解決のための方策</b>	<b>【問題解決の力の育成】</b> 根拠のある予想を基に、観察・実験を行い、自ら発想した予想と得られた結果を比較して考察する活動を繰り返し行うことで問題解決の力を養う。 <b>【既習知識の確認】</b> 顕微鏡の使い方や、花のつくりなど既習事項を扱う学習の際は、単元の導入に必ず確認をし、押さえてから学習活動に取り組む。

(3) 次年度の数値目標

前年度の結果を踏まえ、3年生は目標値59.5%を目指す。4年生基礎5ポイント、5年生は基礎6ポイント向上を目指す、全校平均正答率を目標とする。

## 品川区立中延小学校

### 令和6年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組 【英語】

#### (1) 各教科の定着状況についての概要

目標値・平均正答率は、全国平均と比較し、全体的に上回っており、達成率も14ポイント上回る結果となった。

#### (2) 学年ごとの分析

6年	具体的な課題	原因として考えられること
	領域別に見ると、「書くこと」に課題がある。特に、問題に書かれている例文や資料を活用しながら英作文を書くことに課題がある。	大文字など、ベースラインを意識して書くことが苦手な児童が多い。また、個々のこだわりが強く、資料に書かれていないものを書こうとして書き間違いをするなど、設問に沿って答えないことが原因と考えられる。
	課題解決のための方策	【書く】 JTEの発音を聞き、何を言っているのか聞き取れるように活動に取り組む。また、自分のあこがれの職業など、その資料にある語句を使ってベースラインに沿って書けるように繰り返し練習に取り組ませる。

※2学期以降、課題解決のための方策に取り組み、学期末に課題の確認を行う。

#### (3) 次年度の数値目標

今年度の目標値 73.2 を目指す。